

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	社会福祉法人ねりま共育ちの会 どんぐり山保育園
所在地	東京都練馬区春日町 4-1-13

1. 活動のテーマ

【テーマ】

五感で楽しむ「しずくから始まる水あそび」／ 3歳「そら組」

【実施時期】

2025年8月

【テーマの設定理由】

身近で毎日触れたり飲んだりしている「水」の一滴と出会い直し、遊ぶことで、五感を通してその特徴に触れる機会を設けることをねらいとして、本テーマを設定した。また、水の美しさや不思議との出会いを通して、豊かな感性や好奇心を育むことを目的とする。

2. 活動スケジュール

AM 09:15～	ウレシパモシリ園入り（車は玄関前の敷地に停める） ウレシパモシリスタッフは、園での環境設定・準備 <input type="checkbox"/> ブルーシート <input type="checkbox"/> 滑り止めシート
09:45～	ウレシパモシリ自己紹介
09:50～	【あそびの導入】 絵本「みず ちゃぼん」 水をつぶ「しずく」にご挨拶（自分の腕や手に） <input type="checkbox"/> スポイト：3本 <input type="checkbox"/> 透明プラカップ（小）3個
10:00～	【あそびの展開①水と出会おう】 ・絵本に出てくるオノマトペ、本当にそう聞こえるのかな？耳を澄ませてみよう ・長い袋にお水を入れてみよう ・水の中に葉っぱちゃんを入れてみよう ・長い袋に葉っぱやお花も入れてみよう <input type="checkbox"/> 透明ケース <input type="checkbox"/> ペットボトル <input type="checkbox"/> 透明プラカップ <input type="checkbox"/> 葉、花 <input type="checkbox"/> ごぼう袋

	<p>【あそびの展開②自分だけのキラキラお水を作ろう】</p> <p><input type="checkbox"/>水をはじく葉っぱ、お花</p> <p><input type="checkbox"/>好きな容器：R1 容器、ペットボトル</p> <p>容器を選んで、葉っぱや花を入れる。自分で水を入れてみよう</p>
10:35～	<p>【あそびのまとめ：キラキラボトル展覧会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・透明シートの下にあ～つまれ！ ・みんなのキラキラボトルをキラキラさせよう <p><input type="checkbox"/>透明シート</p> <p><input type="checkbox"/>名前シール ※R-1 容器に貼る</p>
10:45	終了

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・雑巾（水を扱うので、床を拭くように）
- ・名前シール ※一人ずつ作るキラキラボトル（R-1 容器）に貼るもの
- ・ビニールシート
- ・滑り止めシート
- ・スポット
- ・透明プラカップ
- ・ペットボトル
- ・ごぼう袋
- ・R-1 容器（キラキラボトル用）
- ・葉、花
- ・スプーン
- ・透明シート

4. 探究活動の実績

【活動の内容】

以前もり組で活動を行った「ウレシパモシリ」の講師を迎え、「しずく」をテーマに活動を行った。はじめに、子どもたちは手の甲に一滴ずつ落としたしずくに触れ、その感触や動きをじっくりと観察した。

その後は、水の量や勢いによって変化する音に耳を澄ませたり、ペットボトルからコップへ水に移し替えたり、花を浮かべて様子を観察したりしながら、水のさまざまな性質に触れた。また、ペットボトルが水に沈まない様子や、水面に指を入れた時の変化などを繰り返し試し、「どうしてだろう」と疑問を持ちながら、自分なりに方法を変えて確かめる姿が見られた。子どもたちは、水の不思議さや面白さを感じながら、主体的に遊びを深めた。

【活動の様子】



【振り返り】

活動を通して、子どもたちが予想以上に夢中になり、自ら試したり繰り返したりしながら遊びを深めていく姿が多く見られた。講師による自然な導入や活動の展開により、子どもたちは最後まで高い興味・関心を持って参加し、水やしずくの変化や不思議さを自分自身で発見していた。同じ教材を使っているにもかかわらず、一人ひとりが異なる視点や方法で遊びを広げており、子どもの主体性や個性を生かした探究活動の大切さを改めて実感した。

また、保育者が答えを教えるのではなく、子どもの気づきや発見を見守り、興味に寄り添う関わりが、探究をより深めることにつながると学んだ。活動から離れた子どもも、興味に寄り添った関わりによって再び活動へ戻る姿が見られるなど、一人ひとりのペースを大切にしたい援助の重要性も再確認した。

今回の実践を通して、身近な自然物や簡単な道具でも十分に探究的な遊びを展開できることを実感した。今後も葉や石などの自然物や季節の環境を積極的に保育へ取り入れ、子どもたちが五感を使って発見や探究を楽しめる環境づくりを進めていきたい。